

カラ	―	■開山忌・第二十六回育英会辞令交付式	1
法	話	●住職法話 平成二十三年「孟蘭盆施食会のこころ」	12
連	載	●『普勸坐禅儀』に学ぶ その七	20
法	話	●我れ未だ度らざる先に他を度さんとす	28
法	話	●無限に広がる「ご縁」のなかを、過不足なく生きている	38
カラ	―	■当寺二世中興大圓武志大和尚追善法要 歴代住職墓・供養塔開眼並びに入塔諷経	55
		●六地藏尊開眼供養	59
インタビュ	ー	■「共に歩む」総代さん紹介② 中村 治雄さん	62
		●善光寺霊園ニュース	66
		■本寺光真寺三十七世光純俊雄大和尚遷化	72
		●ニュース・アラカルト	82
		●善光寺講座のご案内 論語からのお話	92
		●坐禅会・写経会のお知らせ	96
読	物	■育英生からのお便り	102
留學僧募集集のお知らせ	100	読者のたより	110
		編集後記	118
		第二十四回育英生	樋口 星覚
		題字・イラスト	伊藤三喜庵

巻頭言

善光寺住職 黒田博志

『光陰は矢よりも迅かなり、身命は露よりも脆し』

道元禪師は世の無常についてその『修証義』で、この様に説いておられます。
師父亡きあと八年、晋山式より二年の歲月。

以来私も法燈を掲げる大切さ、またそれを護持していく事の大変さを身を以って学ばさせて頂いております。自身は愚かで弱く、拙くて貧しいながらもなんとか支えられて務めて参りました。ありがとうございます。

論語のなかに、

『述べて作らず、信じて古(いにしえ)を好む』
と示されます。

「大事なことは限りなく古道を信じ古道を好む、されば古い道が実は新しい道につながっていく」と諭します。私は、仏祖の大道、真理は普遍であることを信じて日々刻々、示された道を唯々邁進したいと祈念しています。

住職を拝命してから善光寺は「来者如帰」と発信させて頂いています。ご参詣の方々がひとときでもわが家に帰ったようなやすらぎを感じ、心を癒して頂けるなら私の使命もいささかなりとも尽くせたのではと思っています。

また、今年より「善光寺講座」として、論語からのお話を月々開催致しております。善光寺の開基、ナリス創業者の村岡満義様は論語の教えを経営に活かされた大家です。

論語と仏教を融合し大をなされたお方です。師父もまた開基の論語に傾倒し、坐禅と論語の精神を融合して参りました。これが今日善光寺の基となっています。活き活きとした仏教を展開させていった師父・大圓武志和尚。私自身もまた講

座開設を以って後を踏み、論語を学習し自身の自己洞察力を高めて参ります。皆
さまどうぞ奮ってご参加下さいませ。

三十にして立ち。四十にして惑わないためにさらに皆さまの力をお借りして善
光寺の法燈を護って参りたいと思います。

どうぞ四方の皆さま、一層のご教導、ご鞭撻賜りますよう心よりお願い申し上
げます。